

平成28年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校創立以来の教育方針である「質実剛健」「文武両道」を旨とし、自ら学び、自ら考え行動する心豊かでたくましくバランスのとれた、国際社会に貢献する人間力あふれた人材を育成する。

- 「守る伝統から創る伝統」のキャッチフレーズのもと、古き良き伝統を継承しながら、「グローバル・リーダー・ハイスクール(GLHS)」として、地域にねざしつつ積極的に国際交流活動を行い、国際感覚の育成をめざす。
- 生徒の進路実現に向け、大学との連携等を通じて学習活動の充実を図り、コミュニケーション能力、問題解決能力、科学的思考力を育成する。
- 生徒の自主性を重んじ、生徒会活動や部活動の活性化を図り、グローバルリーダーとしてふさわしい人格の形成をめざす。

2 中期的目標

- 進路を実現させるための学習指導の充実
 - 「わかる授業、力が付いたと実感できる授業」をめざした授業改善に取り組む。
 - 校内における研究授業や授業アンケートの結果を活用するとともに、アクティブ・ラーニングの先進校等を研究し、本校の実践に反映させる。
 - 校内のICT環境の整備に伴い、ICTを積極的に活用した授業改善に向けて研究を進める。
 - 各教科と「課題研究」との有機的な関連付けを明確にし、思考力、判断力、表現力を効果的に育成する。
 - ※ 暇高アンケートにおける「授業満足度」(暇高の授業は必要な力がつく)における肯定的評価 90%以上を維持する。(H27 91%)
 - ※ 暇高アンケートにおける「授業の工夫」に対する肯定的評価を85%以上に引き上げる。(H27 83%)
 - 生徒の進路実現につながるよう、補習・講習及び個別指導の充実を図るとともに、自学自習の習慣を身に付けさせる。
 - 学習合宿などの実施や自習室の利用を通じて、生徒の自学自習力を伸ばす。
 - 大学入試の傾向及び生徒の学習状況を分析し、生徒のニーズに対応した講習・補習を実施する。
 - ※ 暇高アンケートにおける「自習室の利用者」を60%以上に引き上げる。(H27 49%)
 - ※ 暇高アンケートにおける「先生は質問によく答えてくれる」に対する生徒の肯定的評価 95%以上を維持する。(H27 98%)
- 社会に貢献する人間力あふれる人材育成
 - グローバル社会のリーダーとしてふさわしい人材となるよう、基本的生活習慣及び規範意識並びに人間関係構築力の醸成を図る。
 - 生徒会活動、部活動のさらなる充実と活性化を図る。
 - イ 頭髪・服装・挨拶・マナー等の指導を徹底するとともに、環境や人権に対する意識の向上を図る。
 - ※ 複数の部活動における近畿大会への出場を継続させるとともに、全国大会への出場を実現する。(H27 3部4種目が近畿大会出場)
 - ※ 年間遅刻回数を500未満に減らす。(H27 559件<12月末現在>)
 - (2) 社会人基礎力となるコミュニケーション能力の育成を図る。
 - ア 1年次11月の「情報プレゼンテーション大会(霜月杯)」、1年次2月の「英語暗誦大会(如月杯)」、2年次の課題研究成果発表会、SSH合同発表会など発表の機会を充実させるとともにさらなるレベルアップをめざす。
 - ※ 校外での各種コンクールへの応募数及び入賞数毎年10名以上をめざす。(H27 入賞10件)
 - (3) 国際的な視野を広げ、異文化を理解するため、国際交流活動を充実させる。
 - ア SGHアソシエイト校として、台湾、オーストラリア、ドイツ、ベトナムなど海外との交流を充実させるとともに、大学や関係機関の協力を得ながら、グローバルリーダーの育成に取り組む。
 - イ 国際共通言語としての英語が使えるようSETを導入し、TOEICやTOEFLの受験を奨励し、実用英語力の向上を図る。
 - ※平成29年度末までにTOEFLiBTで60点以上が40名、80点以上を10名以上出す。
 - (4) 地域に信頼される学校づくりを推進するため、地域への貢献活動を充実させる。
 - ア 四條畷市の姉妹都市であるドイツのメアブッシュ市との交流を進め、市内の小中学校との交流を進める。
 - イ 本校のSSH事業の成果を地域に還元するとともに、部活動や学校行事等を通して地域に貢献する機会を増やす。
 - ※四條畷市内中学校からの入学者を平成30年度までに定員の10%以上(H28 5.6% H27 5.6% H26 6.7% H25 4.4%)を増やす。
- 学校組織運営の効率化
 - (1) 校長がリーダーシップを発揮し、教職員全体がチームとして学校運営への積極的な参画意識の向上を図る。
 - ア ICT推進PTが中心となって、統合ICTネットワーク、校務処理システムの活用を促進し、学校全体の校務の効率化を図る。
 - イ グローバル部(仮称)の設置をめざして、SGH推進委員会を新たに設置するとともに、SGH推進委員会との役割分担を明確化し、グローバルリーダーの育成に向けた取組みを一層推進する。
 - ウ 職員会議をはじめ各種会議が、情報共有や意見交換の場として機能し、教職員の意見が学校運営に反映できるよう活性化させる。
 - ※教職員向け暇高アンケートにおいて「校長が学校運営にリーダーシップを発揮している」に対する肯定的意見を80%以上に引き上げる。(H27 64%)
 - ※教職員向け暇高アンケートにおいて「教職員の学校運営への意見反映」に対する肯定的意見を70%以上に引き上げる。(H27 36%)
 - (2) 平成28年度から改善される入学選抜の実施に向けて、効果的な広報活動を組織的に推進する。
 - ア アドミッションポリシー(求める生徒像)を教職員で共有するとともに積極的に発信し、中学校、受験生及び保護者に対して周知を図る。
 - ※ 年間5回実施している学校説明会への参加者2,000名以上を維持する(H27 2,814名 H26 2,482名 H25は2,454名)。
 - (3) 一人一人の進路希望に応じた進路を実現させるため、進路指導体制を充実させる。
 - ア 「入れる大学」から「入りたい大学へ」と生徒の進路実現に向けた進路指導を徹底する。
 - ※ 第一志望現役合格率50%以上をめざす。また、京阪神3大学への合格者総数80名以上(H28 82名 H27 74名 H26 84名)を維持する。
 - イ 飯盛セミナーや大学研究室訪問などを通じて、大学や企業で活躍する社会人から学ぶ機会を増やす。
 - ウ 進路指導部の分析データを教職員全員で共有するため、教員対象の「スキルアップ研修」を定期的の実施し、全教員の進路指導力を向上させる。
 - ※外部講師による「スキルアップ研修」への参加率80%以上とする。
 - (4) 安全で安心して学校生活を送れるように環境を整備する。
 - ア 個人情報の適正な管理を行うとともに、万が一事故が発生した際に迅速かつ的確に対応できる体制を整備する。
 - イ 支援や指導を要する生徒に対して適切な対応ができるよう保護者や関係機関との連携を強化するとともに、校内の生徒相談体制をより一層充実する。
 - ウ 地震、大雨等の災害や事故等発生時の連絡体制の徹底を図り、適切かつ円滑な対応ができるようにする。
 - エ 障がいのある生徒が安全に安心して高校生活を送れるよう、合理的配慮と必要な支援を行う。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成28年11月実施分]				学校協議会からの意見	
質問内容	肯定率[%]				
	生徒	保護者	教員		
(1) 学校の満足度。(保護者:生徒が生き生きしている。)	90.2	97.6	-	【第1回】平成28年5月31日(火) ・女子は薬剤師にという希望は多いと思うが、メディカル系の仕事に女子も進める環境作りをしてほしい。 →現在は『リケジョ』という冊子を取り寄せ図書館に置いている。意識を持って臨む。 ・服部医師(卒業生)のTV報道を見て、「自分がその場になくなって、その精神を継承していく」という考えが素晴らしいと感じた。その考えはこの学校で培われるのではないかと。 →引き続き、生徒の意識向上に取り組む。 【第2回】平成28年11月29日(火) ・アクティブラーニング等は、普通の授業でうまく活用されているのか。 →教科により温度差はあるが効果的な実践も多い。何が身につくのかを見極めながら進める必要があるが、若手教員が中心となり自主勉強会を組織するなど取組は進んでいる。 ・SSH・国際交流等行事が多く、教員には負担も大きく仕事の偏りも生じると思われるが、その解消に向け、組織の統合を来年度実施することは評価できる。 ・四條畷市が行っている「なわて学」を生徒に広めてどうか。 →生徒に学校と四條畷市の繋がりなどを深く知ってもらうことで地域貢献にもつながりたい。 【第3回】平成29年2月24日(金) ・国際交流はどんな内容か、また参加者の体験を学校内でどう共有していくのか。 →2年生は、修学旅行で全員が台湾に行き、現地の高校や大学生と交流する。生徒に良い刺激となっている。課題研究などを通じて日頃からの連携に発展させたい。 ベトナム研修は総領事に英語で報告予定。これを校内の発表にもしていきたい。 ・「見て・感じて・行動する」が大切。自身の体験を伝えることが相乗効果を生み、自信や達成感となる。アクティブ・ラーニングは形にとらわれないこと。授業はみんなで作り上げる。国際交流では、多文化の人と意見交換して議論することが大事。 ・教員の横のつながりが大切。先生たちの楽しさが生徒の楽しさにつながる。 ・「一緒にやっている感」があると、多忙感が充実感や達成感になっていく。国の提言や答申は取捨選択、スクラップアンドビルドしていいところを残すのがよい。	
暇高は楽しい。	92.7	87.9	-		
(2) 教え方にさまざまな工夫をしている先生は多い。(教員:工夫している)	80.8	-	89.3		
興味を感じる授業が多い。	67.1	-	-		
(3) 悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる。	66.7	75.6	75.0		
学校生活についての先生の指導は納得(保護者:共感)できる。	83.0	95.3	-		
将来の進路や生き方について考える機会がある。	88.5	90.0	71.4		
HRなどで生命の大切さや社会のルールについて考える機会がある。	71.7	87.8	75.0		
(4) 暇高祭は、楽しく行えるように工夫されている。	94.4	93.9	91.1		
部活動に積極的に取り組んでいる生徒が多い。	96.4	96.4	-		
(5) 本校のSSHの取組みに満足。	71.7	84.5	-		
本校の国際交流(台湾修学旅行・オーストラリア研修等)の取組みに満足。	89.2	86.0	-		
(6) 成績などの内容についてプライバシーが守られている。	87.4	92.3	71.4		
人権を尊重した指導への取組み。	-	84.1	33.9		

(1) 学校への生徒の満足度は高く、生徒の様子から保護者はさらに高い満足度となっている。

(2) 生徒の授業に対する評価も高い。ただし、教員の自己評価の方が高く、興味を感じる授業が十分に実現していない点などは、課題である。

(3) キャリア発達を促す、生徒指導・進路指導・教育相談等については、概ね高く評価されている。ただし、担任以外に相談できる先生がいると答えた生徒は66.7%にとどまっております改善を要する。また、生命の大切さや社会規範については、引き続き指導を深めたい。

(4) 行事・部活動については、いずれも高評価でありこれを維持させたい。

(5) SSHの取組みへの生徒自身の満足度は、さほど高くない。原因を探り改善したい。国際交流は、生徒にとって満足度の高いものとなっており、一層の教育効果を高めたい。

(6) プライバシー保護や人権尊重への取組みは、より意識を高めていきたい。特に人権課題や指導方法について、教員間で十分話し合っているとの観点で教員自身の自己評価は低く、取組が必要である。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 進路を実現させるための学習指導の充実	(1)「わかる授業、力が付いたと実感できる授業」をめざした授業改善への取組み ア アクティブ・ラーニングの実践 イ ICTを活用した授業改善 ウ 各教科と「課題研究」との有機的な関連付け (2)生徒の進路実現につながる補習・講習及び自習環境の充実 ア 自学自習環境の整備による自学自習力の育成 イ 大学入試及び生徒のニーズに対応した講習・補習の実施	(1) ア アクティブ・ラーニングを積極的に取り入れるための指導方法や評価の工夫に関する研修会及び授業の実践 イ タブレット型PC及び電子黒板を使った授業の導入 ウ 生徒の課題研究テーマに応じた教員の指導体制の充実を図る。 (2) ア 1年生全員を対象に実施する学習合宿の在り方を見直し、より効果のあるものに改善するとともに、自習室の利用率を向上させる。 イ 土曜補習の計画的実施と志望校別講習や個別添削指導の充実を図る。	(1) ア 畷高アンケートにおける授業満足度の平均が90%以上(H27 91%)及び「授業の工夫」が85%以上(H27 83%)。 イ 授業でICT機器を使った教員の割合が50%以上(H27 44%)。 ウ 課題研究の校外での発表会で10本以上(H27 15本)。 (2) ア 自習室の利用者数が全校生徒の60%以上(H27は49%)。 イ 土曜補習年間12回以上実施。(H27は9～11回実施)	(1) ア 授業満足度90%、授業の工夫80%であったが、アクティブラーニングは90%の教員が実施するようになった(○) イ 授業でのICT機器使用率は67%(◎) ウ (全国)SSH 生徒研究発表会・大阪サイエンスデイ等にて7本(△) ・日程の関係で予定の参加ができず。 (2) ア 自習室は56%の生徒が利用しているが満室状態であり、廊下での自習者も多い。(○) イ 補習設定可能なすべての土曜日で補習を実施した。補習自体は8～10回の実施となったが、補習、模擬試験、SSH 課題研究発表等により全ての土曜日で学習活動が実施された(○)
2 社会に貢献する人間力あふれる人材育成	(1) 基本的な生活習慣及び規範意識並びに人間関係構築力の醸成 ア 生徒会活動、部活動のさらなる充実と活性化 イ 頭髪・服装・挨拶・マナー等の指導の徹底 ウ 校内美化活動の充実 エ 人権意識の向上 (2) 社会人基礎力となるコミュニケーション能力の育成 ア 発表の機会の充実とレベルアップ (3) 国際交流活動の充実 ア 台湾、オーストラリア、ドイツ及びベトナムとの交流の充実 イ SETを導入による実用英語力の向上 (4) 地域貢献活動の充実 ア SSH・SGH事業を通じた四條畷市内の小中学校との交流推進 イ 部活動や学校行事等を通じた地域交流	(1) ア 新入生歓迎会や日々の活動を通して生徒会活動や部活動の魅力を生徒に伝え、さらに充実した生徒会および部活動にする。 イ 全教員による登校時の指導を通じて、挨拶や交通マナー、遅刻の防止の徹底を図る。 ウ 校内清掃及びゴミの減量・分別の徹底を図る。 エ 人権HRをはじめ、教育活動全体において、生徒の人権意識の向上を図る。 (2) ア 「情報プレゼンテーション大会(霜月杯)」、「英語暗誦大会(如月杯)」をはじめ校内での発表の機会を充実させるとともに、校外での発表会への参加での入賞をめざす。 (3) ア 国際交流キャンプ、台湾への海外修学旅行、オーストラリア研修、ドイツエネルギー研修、ベトナムボランティアツアーの実施及びテレビ会議システムによる交流を行う。 イ 英語の授業に加えて、TOEFL-iBT講座及び英語コミュニケーション集中講座などを実施し、4技能を総合的に育成する。 (4) ア SSH・SGH事業の取組みに四條畷市内の小中学校の参加を呼びかけ、成果を還元する。 イ 生徒、教員の地域行事への参加、地域の方の本校の行事への参加を積極的に推進する。	(1) ア 畷高アンケートにおいて、「生徒会活動への積極的な活動」を60%(H27 42%)にする。 部活動への加入率90%を維持し、近畿大会に4種目以上出場する。 イ 遅刻回数を500名以下に減らす。(H27 12月末559件、年間721件) ウ 畷高アンケートにおいて、環境問題への意識に対する肯定的評価を70%以上にする。(H27 52%) エ 畷高アンケートにおいて、「人権・生命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会が多いか」に対する肯定的回答を80%以上にする。(H26 67%) (2) ア 校外でのコンテスト等への入賞10件以上(H27は10件)。 (3) ア 畷高アンケートにおける生徒の国際交流への満足度が90%以上(H27 84%)。 イ TOEFLiBT チャレンジテスト60点以上10名(H27 1名)をめざす。 (4) ア SSH・SGHに関する小中学校との連携プログラムを年間3回以上実施。(H27 1回) イ 四條畷市等と連携・協働した取組を実施する。(2種類以上)	(1) ア 「生徒会への積極的な活動」は47%に増加。新入生歓迎会や文化祭における生徒の盛り上がりは著しく、生徒自身は極めて積極的に活動している(○) 部活動入部率は1年生95.6%、全校92.0%。(○) 近畿大会に6部7種目(男・女ソフトテニス2大会・バドミントン・山岳・陸上・軽音)、選抜メンバー入り2部2人(ラグビー・バレーボール)(◎) イ 遅刻回数687名で昨年比5%減。通常の遅刻者は1日あたり1～2名であり、不登校傾向の生徒の増加が影響している。遅刻者数減少より支援を優先したい。(△) ウ 環境問題に意識を持って取組んでいる生徒は49%に留まったが、清掃活動には84%の生徒がよく取組んでいる。(△) エ 「人権・生命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会」に対する肯定率は71%に増加した。(○) (2) ア 入賞7件(化学グランプリ1、日本数学コンクール2、科学の甲子園1、四條畷市ライオンズクラブ英語弁論大会2、数学オリンピック1)。他に全国学芸サイエンスコンクール1件。課題研究の成果等を活かした特色入試で、京大・阪大・東北大で6人が合格した。(○) (3) ア 国際交流への生徒の満足度は87%に増加(○) イ TOEFL-iBT講座を、受講者を選抜して前期40名(5回講座)・後期40名(6回講座)に対して実施。CEFRのB1レベルに24人、B2レベルに2人到達(○) (4) ア 中学生対象に2回、私学との交流プログラムで1回発表や交流を行った。(○) イ 四條畷市の「なわて学」への参画、メアプッシュ市長の四條畷市訪問に関する連携、守口市教研と協働した授業研究、地域での吹奏楽コンサート等4種類(◎)
3 学校組織運営の効率化	(1) 教職員の学校経営への参画意識の向上 ア ICT活用による業務の効率化 イ グローバル部設置に向けた機能的な業務運営 ウ 職員会議等の活性化 (2) 組織的な広報活動 ア アドミッションポリシーの共有と発信 イ 保護者・生徒等への情報発信の充実 (3) 一人一人の進路希望に応じた進路実現のための進路指導体制の充実 ア 「入れる大学」から「入りたい大学へ」に向けた進路指導の徹底 イ 社会人から学ぶ機会の充実 ウ 教員対象のスキルアップ研修による全教員の進路指導力の向上 (4) 安全で安心な学校生活への環境整備 ア 個人情報の適切な管理 イ 校内の生徒相談体制の充実 イ 災害や事故等発生時の連絡体制の徹底と円滑な対応 ウ 視覚障がいのある生徒への対応	(1) ア 統合ICTネットワーク、校務処理システムの円滑な運用に向けた最終調整を行う。 イ SSH・SGH推進委員会と分掌・学年教科との連携を強化し、学校全体の校務の効率化を図る。 ウ 職員会議や各種会議の活性化を図り、学校の現状と課題の共有化を図るとともに、教職員の学校運営への参画意識を高める。 (2) ア 校内や校外における学校説明会等や学校HPを通じて、アドミッションポリシーをはじめ本校の取組みを積極的に発信する。 イ 学校HP・メルマガなどによる情報発信の充実 (3) ア 生徒及び保護者に対する進路説明会の充実と大学キャンパスツアーを実施する。 イ 卒業生や社会人を講師として招へずる飯盛セミナーや大学の研究室訪問を実施する。 ウ スキルアップ研修の時期・回数・内容を見直し、より一層教職員のニーズに合ったものとする。 (4) ア 校内の情報管理体制及び万一事象が生じた際の連絡・周知方法について教職員に周知徹底する。 イ スクールカウンセラーによる生徒、保護者、教員の相談を月1回以上実施するとともに、ストレスマネジメントに関する講演会を開催する。 ウ 防災訓練の定期実施とともに、授業において防災に関する教育を導入する。 エ 通学路及び校内の安全確保のため、点字ブロックや点字案内板などの設置及び障害物の除去などを行う。	(1) ア、イ 畷高アンケートにおいて、「教職員の意見反映」に対する肯定的評価が60%以上(H27 36%)。 ウ 畷高アンケートにおいて、「職員会議や各種会議が有効に機能している」に対する肯定的評価が60%以上(H27 42%) (2) ア 学校説明会への参加者数2,000名以上を維持する。(H27 2,814名) イ 学校HPの更新回数150回以上。(H27 109回) (3) ア 京阪神3大学の現役合格50名以上(H28 49名)、既卒者を含めて80名以上(H28 82名)。 イ 畷高アンケートによる「飯盛セミナー及び研究室訪問の満足度」が85%以上(H27 71%) ウ スキルアップ研修への参加率90%以上。(H27 81%) (4) ア 畷高アンケートにおける教職員の「個人情報に関する管理システムの確立」に対する肯定的評価70%以上。(H27 54%) イ 畷高アンケートにおける保護者の「教育相談」に関する肯定的評価が80%以上(H27 75%)。 畷高アンケートにおける生徒の「ストレス対処法」に対する肯定的評価が80%以上(H27 58%) ウ、エ 畷高アンケートにおいて、保護者の「事故防止に配慮し、学校施設・設備の点検を行っている」に対する肯定的評価が80%以上。(H27 72%)	(1) ア、イ 畷高アンケートにおける「教職員の意見反映」への肯定率は41%に増加。統合ICT・校務処理Sも運用を始め、GL部も立ち上げた。(○) ウ 「職員会議や各種会議が有効に機能している」に対する肯定率は34%と減少した(△) ・職員会議を意見交換の場と位置づけ運営したことが影響しているものと思われる。 (2) ア 学校説明会への参加者数は2868名(◎) 毎回定員を超えた申し込みがあったが、会場の収容能力の関係もあり参加数を限定した。 イ 学校HPは90回更新(△) (3) ア 京阪神3大学の現役合格者は40名、既卒者を含めて60名(△) イ 「飯盛セミナー等」の満足度は71%で増減なかったが、研究室訪問(東大・京大・阪大・神大)が昨年より340名が参加し41名増加した。(○) ウ スキルアップ研修への参加率は81%で増減なかったが、キャリアカウンセリングに係る研修など新たな取組みも行った(○) (4) ア 教職員の「個人情報に関する管理システムの確立」についての肯定率は71%と増加した。(○) イ 保護者の「教育相談」に関する肯定率は76%と増加した(○) ウ、エ 保護者の「事故防止に配慮し、学校施設・設備の点検を行なっている」に対する肯定率は67%と減少している。(△) ・施設・設備は点検及び対策をこまめに行なっているが、文書による周知等をしなかったことが原因にあげられる。